

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 51

2017年1月発行

〒535-0022 大阪市旭区清水 2-16-22 TEL06-6953-2665 fax06-6953-2655 E-mail houpu@river.sannet.ne.jp



昨年はお世話になりました。心よりお礼を申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



法人設立から13年近く、放課後等デイサービスの事業を始めて3年が経ちました。デイに通ってくる子どもたちの成長を喜び、子どもたちの抱える課題に悩み、いろいろな事がある日々を試行錯誤しながら、一日一日を大切に積み重ねていきたいと思ひます。

私の娘は身体的にも知的にも重度の障害をもっています。娘の児童期には放課後等デイサービスはありませんでした。小学校の時はいきいき教室、中学の時は週数回の部活動に行き、高校は夜間定時制だったので昼間は介助者といろいろな所に行つて様々なことを体験しました。今、科目等履修生として大学に通ひ、4年が経とうとしています。この春、大学を「卒業」しようと、卒論に取り組んでいます。言葉でコミュニケーションが取れず自力で卒論を書くことができないため、今まで出会ってきた人たちに会い、一緒に写真を撮りメッセージをもらおうという課題にしました。保育所、小学校、中学校、高校の先生方にも久しぶりに会い、メッセージを書いていただきました。先生方が、娘と周りの子どもたちによって気づかされたことや学んだことを心に刻んでくださっていました。いい先生方に出会い、恵まれた保育所生活・学校生活を送ってきたと、改めて思ひました。

周りとの関係性の中で子どもの成長を見ていくことの大切さを思ひます。私は娘の「発達」を強く意識して育ててはきませんでした。他人と比べることもなく、多くの人との関わりの中で、支えたり支えられたりしながら暮らし、子も親も周囲の人たちも成長してきました。人が育つというのはそういうことだと思ひます。そして、自立をしていくためには、自分の人生を選び決める力を育てていくことだけではなく、ありのままの自分を肯定的に受け入れて「私はワタシ」と生きていくことが大切だと娘に教えられました。娘との暮らしから、私は「生きる」ことについて深く考えさせられてきました。

障害児を分けて育て、障害者を支援する対象としか見ようとしない社会が、優生思想を生み差別感情を大きくし、昨年の相模原のような残酷な事件を起こしたりするのではないかと思ひます。子どもたちが地域の一員として育ち暮らす社会、誰もが望まれた人として生きることのできる地域社会を願ひ、今年も地域に根ざした活動をしていきたいと思ひます。

NPO法人地域生活サポートネットほうぷ 向井裕子

旭区ふれあい広場に参加しました

日時：2016年10月31日（火） 11：00～15：00

場所：旭区民センター

参加者：障害をもつ子ども 9名、学生ボランティア 4名

昨年につき、旭区社会福祉協議会主催の「旭区ふれあい広場」に参加しました。子どもたちが作った製品を販売する体験をしました。七宝焼き製品、クルミボタンの髪飾り、ミサンガ、小物入れ等を並べ、革のキーホルダーの実演販売もしました。子どもたちは、順番に店番をしたり、会場内を回って昼食やおやつを買って食べたりしました。

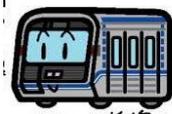
昨年に比べて来場者が少なく、特に、小さな子どもの親子連れが少なく、作品の売れ行きはいまひとつでした。幼児向けに作ったかわいいクルミボタンの髪ゴムが売れなくて、ちょっとがっかりでした。でも、地域のいろんな方々に出会ったり、役所や社協の職員さんもお店に来てくださったりして、地域のつながりを感じることができました。

＜ボランティアの感想から＞

- ・今日は、約1年ぶりにボランティアに参加させていただきました。初めは久しぶりすぎて緊張していましたが、うちとけられたので良かったです。バザーでは、子どもたちが率先してお客さんに声をかけている様子を見て「見習わなくては！」と思いました。また、みんなと一緒に休憩している時、店を一緒にまわられてとても楽しかったです。
- ・今回、久しぶりにほうぶの活動に参加しました。バザーには前回も参加していたのですが、今回は、いろいろな子たちと休憩時間に会場を回りました。久しぶりの参加でしたが子どもたちが皆すごくフレンドリーに接してくれるのですごく楽しかったです。
- ・今日初めて会ったAちゃんは、最初は一言二言しか話していなかったのですが、接客やお店をまわっているにつれて徐々に仲良くなっていくのを感じました。Bちゃん・Cちゃん、どちらも楽しそうな笑顔をたくさん見せてくれて、とても嬉しかったです。
- ・Dくんと行動するのは梅田の時に続き2回目でしたが、前回よりしっかり歩いてくれてよかったです。どのくらいの行動を子どもに要求するのかがいまいちつかめずに判断が難しいと思いました。



電車でおでかけ



23系 四橋線

日時：2016年11月12日（土）10：00～16：00

行き先：ほうぶ ～ 住之江公園

参加者：障害をもつ子ども 10名、学生ボランティア 12名

地下鉄を乗り継いで、住之江公園に遊びに行きました。いろいろな地下鉄に乗ることと公園で身体を動かして遊ぶことを目的にしました。子どもたちは、遅刻することなく集まり、みんながとても楽しみにしていたことがわかりました。途中の駅で、運動靴が脱げて線路内に落ちてしまうという予想もしなかった大ハプニングがあり、駅員さんにご迷惑をかけてしまいました。みんな無事に行って来ることができました。住之江公園では、元気にしっかりと遊んできました。たくさんのボランティアの学生さんが参加してくださり、本当にうれしかったです。

<ボランティアの感想から>

- ・地下鉄に乗り継いで移動中に、子どもが注意をされた場面があったが、注意された内容を理解できるように説明することが大切だと思った。公園では、遊具やどんぐり集めをして楽しく遊んだ。帰り、ほうぶの前の会場で町内の落語会をしているので、ほうぶの前では静かにするように言われて、静かにしてくれたので良かった。
- ・Aくんと一緒に行動しました。急に走りだしたり座り込んだりしましたが、声をかけると一緒に動いてくれたりして、思ったよりスムーズに行動できました。ただ、目を離すと危ない行動をしたり危ない場所に行ってしまったたりしそう。目を離さないようにしないといけないと思いました。
- ・障害のある子どもたちと接するのが久しぶりだったので、すごく良かったです。どこまで手伝ったらいいのか等、まだまだ分からないところがたくさんあって試行錯誤でしたが、とてもいい経験になりました。今回の活動に参加して、歩く距離の長さや電車に乗っている時間の長さに驚きました。また、子どもたちが帰りも元気で驚きました。自分が勝手に想像しているのと違うんだなあと思いました。こういう機会が大切だと思いました。
- ・初めてボランティアに参加して、最初はちゃんとできるか不安でしたが、とても楽しく活動できました。Bちゃんはとても電車が好きみたいで、「これはホームドアっていうんだよ」とか「ポートタウン線に乗りたい」などいろいろと話してくれました。Bちゃんが、ホームで電車を見ようと立ち止まった時、すぐに「はやく皆のところに行こう」と注意してしまいましたが、私が周りを見て安全か、周囲の邪魔になっていないか、みんなとはぐれないかなどを判断して、もう少しゆっくり見せてあげればよかったと思いました。



保護者研修会

元気になろう！こころもからだも！

日 時：2016年11月12日（土）10：30～12：30

会場：楽童ほうふ

講 師：内田由可里さん(臨床心理士・メンタルヘルス相談室オフィスうちだ)

参加者：障害児の保護者5名、子ども1名

協 力：大阪市男女いきいき財団 クレオ大阪東

平成28年度大阪市男女共同参画「地域出前セミナー」事業



今年もクレオ大阪東の地域出前セミナーを開催しました。昨年度は、地域の方々向けに防災の講演会を開催しましたが、今回は、障害児の保護者向けにメンタルヘルスに関するセミナーを開催しました。子育てや仕事や日々の生活に追われて、自分でも気付かないうちにこころとからだのバランスが崩れそうになっていることがあります。こころやからだの元気を維持できる方法を学び、リラクスの方法やポジティブな思考方法について、タッピングタッチやリフレーミングなどの体験をしながら、楽しく学ぶことができました。研修後のティータイムにも内田先生が参加してくださり、少人数で和気あいあいとおしゃべりをして心がホッとする時間となりました。法人スタッフも参加し勉強し、早速、職場で使いたいと話していました。



<参加者の感想から>

- ・普段一人で三人の子どもをみているので忙しく、休みの日も休みになっていないことが多いのですが、親子で教えてもらったタッピングなど実践していきたいと思いました。
- ・はじめ、こころもからだも危険なのかな～とドキッとする開始だったので、不安やな～なんて思いましたが、今、健康であることで、以前とは違うような感覚で講座を受講できて気持ちよかったです。自分の成長も感じました。
- ・あまりストレスを感じない方だと思っていたのですが、親族の不幸が重なり気持ちが重くなっていたようで、今日の話聞いて、手を抜いて、自分が楽になるのも一つの手段と教えていただき良い勉強になりました。ティータイムに良いひと時も過せました。

放課後等デイサービス「楽童ほうふ」報告

春から夏にかけて、中学三年生4名の個人将来計画ワークショップを開催してきましたが、12月は高校一年生の女子2名のワークショップを開催しました。高校生活あと2年少しで社会に巣立っていく生徒の将来を考えながら、本人とご家族、教員、友達、ピアカウンセラー、関係者が集まり、いろんな意見を出し合い話し合いました。1月は高校を卒業する生徒のワークショップを開催する予定です。

11月は、高校進学をする中学生の保護者の方々に集まっていただき、オープンスクールや高校見学の情報交換と交流会をしました。障害をもつ子どもたちの高校進学は、本当に高い壁があります。子どもと保護者と一緒に悩み考え、寄り添っていきたいと思います。

また、あるところからいただいた古いさをり織機を使えるようにしたいと考え、会報50号でさをり織のボランティアを募集しました。縁あって、さをり織をしている事業所とつながることができ、メンバーさんとスタッフさんが織機を見に来てくださいました。そして、一緒にさをり会館にも行ってくださいました。さをり会館でアドバイスをいただきながら必要な部品を購入しました。その後、何回かボランティアで指導に来ていただき、年末には子どもたちも織ることができるようになりました。これからは楽しみです。

11月12日にはスタッフ研修として、エルム大阪や、区民センターと区社会福祉協議会で開催された発達障害をテーマとした内容の研修会を受講しました。研修会后、スタッフで情報共有し、実践につなげています。個別支援計画作成の都度、スタッフ間で意見交換をして情報と支援方針を共有していますが、その際にも研修の内容が役立っています。

12月はクリスマス会&ほうふ発表会、焼き芋作り、大掃除と色々な活動が続きました。大阪経済大学、大阪工業大学、京都女子大学の学生さんたちが協力してくださいました。大掃除は子どもたちと学生さんと一緒に雑巾がけをしたり、本やおもちゃを整理したりしました。掃除の後、男子は銭湯に行き、女子は駄菓子屋さんに行きました。銭湯に行くことで清潔について伝えることができ、駄菓子屋では選択と計算の練習ができます。たくさんのお学生ボランティアさんのおかげで、充実した活動ができました。クリスマス会と焼き芋作りの詳しい報告は、次に。



ワークショップ



公園遊び



織り作品1号



大掃除

10月12月の
誕生日会のお菓子作り



クリスマス会&ほうふ発表会

日時：2016年12月17日(土) 14:30~16:30

参加者：デイの子ども12名、学生ボランティア9名、家族5名、地域の方1名

クリスマス会は、子どもたちが得意なことを披露したり、歌ったり踊ったりと自己表現をする発表会もしました。子どもたちはいつも通りに朝からやって来て、クッキングでシチューを作り、クリスマス会のリハーサルをしました。お昼ご飯は、子どもとボランティアの学生さんと大人数で賑



やかにクリームシチューとロールパンを食べました。ボランティアの大阪経済大学の学生さんたちは、クリスマスカードづくりを企画してくれ、参加者が思い思いのカードを作りました。中学生がスタッフにくれたクリスマスカードには「いつもありがとう」と書かれていて感激しました。最後は武庫川女子大学の音楽療法専攻の学生さんによる音楽会でした。この一年、毎月、子どもたちと音楽をしに来てくれていたので、子どもたちと一緒に合奏や合唱もしてくれました。クリスマス会にむけて練習してきた「ひまわりの約束」はとっても素敵でした。保護者の参加が少なく残念でしたが、たくさんの学生さんが来てくれて会場はいっぱいでした。

＜ボランティアの感想から＞

- ・クリスマス会では恥ずかしそうにしている子どもたちもいましたが、みんなそれぞれの発表をがんばっていたので良かったです。クリスマスカードづくりはクリスマス感があって良かったです。途中から好きなものを描きだす子もいてクリスマスカードと違ってきた場面もありましたが、みんな楽しそうで良かったです。
- ・学校が終わって駆けつけると、ちょうどお昼ごはんでした。クリームシチューがとてもおいしくて感動しました。クリスマス会の子どもたちの発表は個性あふれていてとても楽しかったです。出番を待っているAさんが、何度か「緊張する」とつぶやいていましたが、いざ前になるとしっかり発表できていて、終わった時、満足そうでやりきった様子が見れてうれしかったです。クリスマスカードづくりは、「できた」と見せに来てくれる子どもたちがいて、リボンを大きくつけたり、ガードの下をギザギザに切ったり、個性が出て面白かったです。私たちの音楽会は、至らない部分もあり、個人的には反省点が残ってしまいましたが、子どもたちが楽しい時間を過ごしてくれていたらと思いました。
- ・今日は、スライドや動画でも普段の子どもたちの様子を見ることができてとても有意義で楽しかったです。発表は個性を存分に出していたと思いました。クリスマスカードづくりでは、Bちゃんが、好きな音楽グループを描いて彼女らしいカードを見せてくれました。音楽会では、みんなで一緒に合奏合唱した「ひまわりの約束」は、Cくんはギター、Dちゃんはピアノを頑張っていて、みんなでやりきれたという達成感がありました。



焼き芋を作りました



日時：2016年12月24日（土）

参加者：デイの子ども10名、学生ボランティア5名

ほうぶの前で焼き芋をしました。バーベキューコンロで炭火を起こして、アルミホイルに包んだサツマイモを並べました。また、小さな鍋にコンデンスミルクの缶詰を入れてバーベキューコンロの上に置き、生キャラメル作りもしました。お昼ご飯に、焼き芋と生キャラメルを付けたパンと、クッキングで作った野菜スープを食べました。

＜ボランティアの感想から＞

- ・ 焼き芋を炭で焼いているのを初めてみたので驚きでした。焼き芋をおいしそうに食べている子どもたちの笑顔が輝いていて私も笑顔をもらいました。
- ・ 焼き芋を焼くというイベントを通して子どもたちが様々なことを学ぶとわかり、私も勉強になりました。焼き芋の後で、Aちゃんが織機を使っていたのですが、面白いと言って、集中力がとてもすごいと思いました。公園にもいき、子どもたちとブランコに乗りました。とても楽しい一日でした。
- ・ 焼き芋と生キャラメル作り、すごくおいしかったです。子どもたちみんな落ち着いていて感心しました。公園で、ケイドロをしたり、はないちもんめをしたりしました。もっと学生から遊びを提案できたらと思いました。



ドキュメンタリー映画「リース遠征隊 ～ガルフピッケンの夢～」 上映会&トークセッション！

日時：11月16日（水）14:00～ 16:30～

会場：東成区民センター 小ホール

主催：リース遠征隊上映会実行委員会（9団体）



生野区のNPO法人「出発のなかまの会」さんに声をかけていただき、リース遠征隊ドキュメンタリー映画の上映会の実行委員会に加わらせていただきました。デンマークのエグモントホイスコーレ卒業生である車椅子ユーザーの難病の青年、リースヤコブさんが、仲間と共に北ヨーロッパの最高峰ガルフピッケンに登頂したドキュメンタリー映画です。夜の部ではヤコブさんを含め6名の方が来てくださりトークセッションもありました。会場からの質問にも丁寧に答えてくださり時間が足りないくらいでした。

いろんな団体の方々と連携して一つのことを成し遂げるといい体験ができました。地域の女性会の方々が大勢で観に行ってくださいました。地域の方々に助けられていることを実感しました。ご参加いただいた方々に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。会場設備上、車椅子席が大変少なかったことをお詫び申し上げます。

今号は、巻頭に新年のメッセージを載せました。短い文章で伝えることはとても難しいです。昨年、地域自立支援協議会こども部会で就学なんでも相談会を開催しました。その時に、学校選択に悩む保護者の方々とお話をし、いろいろなことを思いました。選択できることは良いことですが、辛い選択を迫られることは悲しいことです。また、娘を出産した時、妊娠8か月で障害がわかるという体験をし、優生思想について考えてきた私は、昨年の痛ましい事件に心が苦しくなりました。

切り捨ててよい命などはありません。どの命もかけがえのない大切な命。今年が皆さんにとって良い一年となりますように。

